

北九州市立地適正化計画(改定素案)【概要版】

1 コンパクトなまちづくりの必要性

本市は、今後、急速な人口減少と超高齢化により、住宅市街地の低密度化、地域活力の低下が進み、厳しい財政状況のもとでは、市民生活を支えるサービスの提供が困難になることが想定されます。

このような人口減少下においても、地域の活力を維持・増進し、都市を持続可能なものとするためには、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、コンパクトなまちづくりを進めていくことが重要です。

そのため、本市では、コンパクトなまちづくりをより一層推進するため、平成28年9月に「北九州市立地適正化計画」を策定しました。また、計画策定時から概ね5年経過したことを受け、誘導施策・事業の見直しを実施するとともに、都市再生特別措置法改正による「防災指針」の策定及び防災指針に基づく防災・減災対策の取組の位置付けを行い、災害に強くコンパクトなまちづくりを推進していきます。

都市の現状と課題

地域活力の低下

- 人口減少、高齢化、人口密度のさらなる低下

拠点機能の低下

- 拠点である市街地中心部での人口密度の低下
- 未利用地の発生

公共交通の衰退

- 公共交通利用者は平成17年頃まで減少し、横ばい傾向

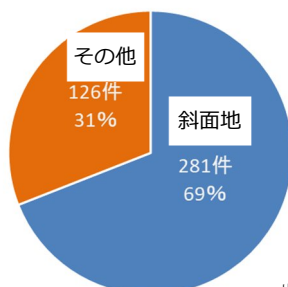
災害に対する不安感の増大

- 斜面地には土砂災害警戒区域も多く、高齢化率も高い

財政への影響

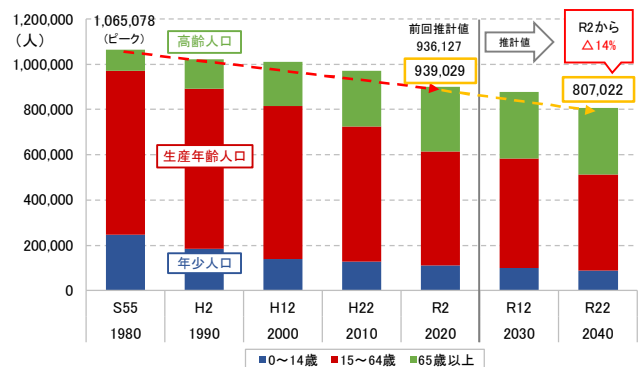
- 公共施設の大規模改修等の将来的な必要額は、近年の財政水準では大幅に不足

〈平成30年7月豪雨における崖崩れ発生状況〉



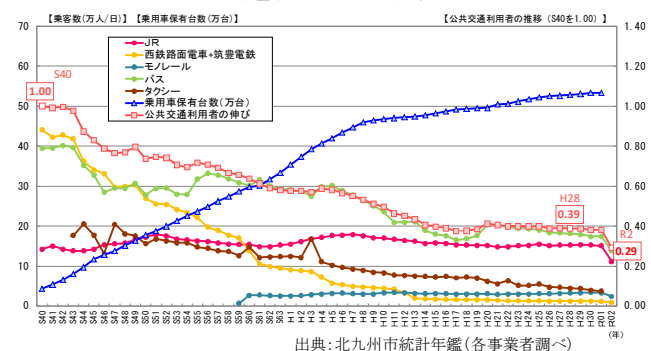
出典：北九州市調査

〈北九州市の人口推移〉



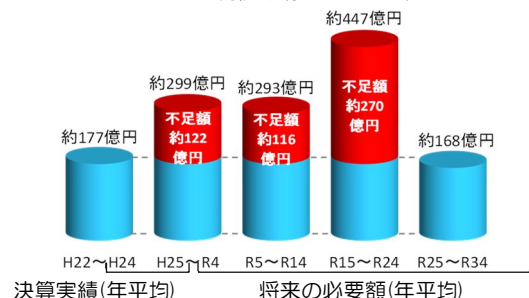
出典：総務省「国勢調査(S55～H27)」、北九州市「令和2年国勢調査人口等基本集計結果の概要」(R3)国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

〈公共交通利用者数の推移〉



出典：北九州市統計年鑑(各事業者調べ)

〈公共施設の大規模改修・建替え費用〉



出典：北九州総務企画局 (H25.3)